

令和 6 年度 第 2 回美唄市部活動の地域移行検討協議会実施概要

日時：令和 6 年 10 月 2 日（水）午後 3 時 30 分～4 時 55 分

場所：美唄市役所 2 階 市長会議室

<出席者>

委 員 浅利会長、松田副会長、須田委員、山上委員、島田委員、村上委員、
悪七委員、三分一委員、本田委員、杉本委員、多田委員、小見山委員

事務局 学務課長、学務課参事、学務課長補佐、学校教育係長

<欠席者>

委 員 石塚委員、野々村委員、高橋委員、英委員

<次第>

1. 開会
2. 議題 (1) 第 1 回美唄市部活動の地域移行検討協議会実施概要について
(2) 美唄市部活動の地域移行に関するアンケート集計結果について
(3) 部活動指導員・外部指導者について
(4) その他
3. 閉会

議題について

- (1) 第 1 回美唄市部活動の地域移行検討協議会実施概要について

概要説明

修正、質疑等なし

- (2) 美唄市部活動の地域移行に関するアンケート集計結果について

アンケート結果説明

質 問 ・ 意 見	回 答 等
■休日等の部活動が地域移行した場合、「できれば指導したくない・指導したくない」と回答した教職員が多く、保護者としては不安に感じる。	—
▼アンケートの回答率が低い結果を、どう分析しているのか。保護者や市民の関心の低さ、理解に問題があるのではないか。	・事務局も回答率が低いと感じている。 ・保護者の中には、プリント 1 枚の配付だったためアンケートのことを知らなかった方がいるかもしれないし、部活動の地域移行のことを理解してもらう前の実施のため、関心が薄かったのかもしれないことを想定するが、実際の分析はできていない。 ・回答率が低い中でも、課題に対しての意見は重複しているので、それを踏まえ、今後、議論が必要で、理解も深めていくことが必要と考える。

▼現在、部活動の送迎など市教委の方でやっていることがあるのか。 ▼拠点校などで、練習、試合時の場所への移動が、保護者にとって、時間や経費で負担になっているので、検討課題と考える。	・美唄中と東中でスクールバスの部活動便で対応しているものがある。 ・R7年度、美唄中と東中でバスケット部を拠点校にする準備を進めていて、スクールバスを活用し、学校間の移動ができるよう調整を進めている。 (R7.4拠点校部活動に移行)
▼部活動の種別で違うが、ユニフォームや用具に係る経費について	【中学校】 ・種目によっては、体育の予算で購入したり、学校の備品も使えるが、テニスボールは保護者負担、楽器類についても予算は潤沢ではないし、野球、陸上も物によっては個人負担のものがある、 ・ユニフォームをチームで持つのか、個人で持つのかで様々。バドミントンのシャトル代は結構お金がかかっている。小学校から使っていたものを使っている子もいる。 【小学校（少年団）】 ・体育会系の少年団については、学校のボールや施設を有効活用できるため、それほどの負担はないかと思うが、吹奏楽については、楽譜から楽器の補修メンテナンスまで、全てを負担していただいている状況。 ・各家庭から負担をしてもらっているし、先生によっては、自分のものを使ってという場合もある。 【保険について】 ・部活動で怪我をした場合は、スポーツ振興センターの補償対象になるが、少年団等などは、その団体の方で保険に入っていて、個人負担となっている。

(3) 部活動指導員・外部指導者について
部活動指導員・外部指導者の説明

質 問 ・ 意 見	回 答 等
▼拠点校になった場合、指導は教員でなくもいいのか。外部という形で、そこに対価・報酬が発生するという理解でよいのか。	・拠点校は学校の部活動であり、地域移行のゴールではなく、あくまでも救済措置。 ・在籍校に希望する部活動がなく、他校でその種目を拠点校として届出している場合、その学校の部活動に参加できる仕組みで、市教委の許可が必要。 ・指導は教員のほか、部活動指導員・外部指導者が対応。

▼美唄市が義務教育学校を設置した場合も、部活動の地域移行は必要なのか。	・ 現在、美唄市では義務教育学校の設置の考えはないが、義務教育学校となっても地域移行を進めて行く考えに変わりはない。
▼現状、休日の部活動指導のときの先生方に対する手当はどうなっているのか。	・ 平日については「なし」。土日については、1日3時間以上指導したときは一律2,700円。
<以下、意見のみ> ■地域移行を進める上で、行政の関わり、負担の支援は絶対不可欠な要素であり、そこは、きちんとこの協議会でも議論し、必要なことは求めていかなければならないと考えている。 ■土日の指導、その中には専門ではない指導をしている先生も多いということも聞いている。僅かな手当しか出ていなく、先生方の負担を考えると限界にきていると感じる。部活動指導員でも外部指導者でも、無償でもらうのも限界あるので、ある程度コストを発生させるような体制を作っていただきたい。 ■アンケートの回答が少ないという原因は情報不足と感じる。保護者はもちろんだが、なぜ地域移行が必要なのか、なぜ部活では駄目なのかという部分をもっと情報提供して、またアンケートをしたら、また違う回答が出てくるかもしれないし、何をしたいのか柱をきちんとしてほしいと思う。 ■中学校の部活動とは違い小学校の少年団活動は、指導に携わる教員の実態は、専門性も含め非常に少ない状況にある。 ■小学校の活動でも、指導や備品の面で、合同ということも必要ではないかと考える。 ■先生たちが、「できれば休日とかは指導したくない」という回答は、生の声なのかと感じる。また、「人」というところでは、部活動の地域移行だけではなく、スポーツ振興としても大きな課題かと感じている。 ■スポーツと子どもの活動を中心にしたプレーヤーズセンタードという新しい考え方を美唄市として発信し、そこにできる先生が協力し活動するというのが個人として考える目指す姿かと思う。行政の支援も含め、地域として子どもたちのスポーツとの関わりをどのようにより良くしていくのかをたたき台にしていければと思う。	

(4) その他

質 問 ・ 意 見	回 答 等
▼道内（苫小牧・登別・北見など）で色んな取組があると思うので情報提供をお願いしたい。	・ 他市の状況については、確認する。また、道教委や国のＨＰに事例の掲載があるので、確認をお願いしたい。
▼アンケート結果は公表するのか。	・ 市のＨＰで公表予定。
■部活動の地域移行のことは、子ども、先生方、市民の方とか保護者の方も全員で取り組んでいくことだと思うので、定期的に情報提供し、少しずつ認知してもらいながら、いい方向に進んで行くといいと思う。	—